

## 令和2年度 第2回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

令和2年12月14日（火） 15時00分～16時30分

### 2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室302

### 3 出席委員及び欠席委員の氏名

#### (1) 出席委員（7名）

益川 浩一 委員（岐阜大学地域協学センター長教授）  
江良 友子 委員（愛知学泉短期大学講師）  
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表）  
葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学参与）  
三矢 勝司 委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた  
事業推進マネージャー）  
坂口 啓子 委員（市民公募委員）  
浅岡 悦子 委員（市民公募委員）

#### (2) 欠席委員

なし

### 4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

手嶋俊明（社会文化部長）、松田与一（市民協働推進課長）、清水英文（同課副課長）、鈴木智（同課総務企画係長）、野澤成裕（同課活動支援係長）、内田千尋（主事）、林宏樹（主事）、三宅知子（中央図書館長）、鈴木庸三（同館副館長）、鈴木勝道（同館総務係長）、河合豊（主査）

### 5 傍聴者等

0名

### 6 委員長挨拶

（内容省略）

### 7 議題

#### (1) 第3次岡崎市生涯学習推進計画素案」について【資料1】

事務局から資料1（「第3次岡崎市生涯学習推進計画素案」）について説明

<以下、各委員の意見等>

委員：2点あるが、まず、素案P11のアンケートの結果について、一番多い回答として、「健康の保持・増進、体力づくりのため」が51.9%と一番多くなっているが、通常こういうアンケートだと2番目や3番目に来ることが多いが、何か理由があれば教えて欲しい。  
2点目に、資料2の項目7で専門スタッフを配置するとあるが、すでに配置が決まっているのか、もし決まっているのならどんな人材なのか。

事務局：1点目のアンケートの結果について、「健康の保持・増進、体力づくりのため」が一番多い理由は、岡崎市の最近の取り組みとして、歩くことを推進する独自アプリの導入や「健康おかざき21」の計画を策定し推進しているので、健康に対する意識が高いのではないかと考えている。

2点目の地域図書室に専門スタッフを配置することについては、アンケートによって配置の必要性が認識できたと考えている。

委員：ぜひ配置について進めてもらいたい。資料の充実も大切だがそれを扱う人材も大切である。アンケート結果にもあるが、中央図書館に行きづらいため地域図書室を使いたい市民もいるので、検討をお願いしたい。

委員：地域交流センターと市民センターの違いがわかりづらかったので勉強させていただいた。その中で、施設として古いものがあり充実内容がふさわしいものかどうか疑問がある。また、地域交流センターは新しいが農協や支所など様々な施設があるので何をメインとしているのかわかりにくい。市民としては、中央図書館ばかり充実することに対して抵抗感がある。

委員：アンケート結果について、事務局からもう少し補足をお願いしたい。

事務局：職員が出前講座を実施しているが、健康に関する講座は地域で実施して欲しい要望が多くあるので、それがアンケート結果に表れているのではないかと考えている。

委員：アンケートの属性が掲載されていないのでわからないが、回答者の

年齢層が高いと「健康の保持・増進、体力づくりのため」が多くなり、若年層が高ければ、「趣味の幅を広げるため」や「仕事や資格を取得するため」が多くなるかもしれない。

もう一つ、P21の「多様な学習・交流機会の提供」で、施策3の「学習が困難な人への学習機会の充実」の表現だが、P25の本文中の「困難を有する人」というような表現の方が適切ではないか、また「障がい者」ではなく「障がいのある方」のほうがいいのではないか。

委員：まずアンケート結果だが、計画に記載するかどうかは別にして、年齢によるクロス集計を実施しておくとして、P24に「ライフステージに沿った生涯学習の充実」があるので、記載内容の充実が見込めるかもしれない。

例えば、「今不安に思っていること」を調査すると、「老後の生活設計」、「本人の健康」、「家族の健康」、「今の収入の不安」、「老後の収入の不安」が上位にくるが、「老後の生活設計」や「健康」は高齢者が多く、「収入の不安」は若年層が多い傾向にある。

次の指摘だが、図書館の施策では、専門スタッフの充実がP32の「地域学習拠点の充実」個別施策②で記載されているので他の機能強化も含めてぜひ進めてもらいたいところである。

3つ目の指摘だが、施設のわかりやすさ、親しみやすさも大事であるというものだった。それについてP27「生涯学習関連施設の充実」で「地域住民にとってより親しみやすく魅力ある」と記載してあるがもう少しわかりやすさについても記載があった方がいいかと思う。

委員：センターの中には、体育館や子ども教室など様々な施設が入っておりわかりづらいものがある。反対に地域交流センターだと図書館が欲しいのにないところがある。貸館の有効活用を検討して欲しい。

委員：P27に施設の充実で機能向上とあるのでぜひ実現して欲しい。また、わかりやすさの部分で表現の方法を検討して欲しい。4つ目の学習が困難の表現方法についてどうするか。

事務局：「困難を有する人」や「障がいのある方」などに変更したいと考えている。

委員：福祉など関連部局と相談し表現を検討して欲しい。

- 委員：3点意見がある。1点目に、P20の重点施策にSDGsの視点の項目がないのはどうか。障がい者の支援をしている団体など支援者を含めた学習機会の充実など記載して欲しい。
- 2点目に、P28の「ICTを活用した多様な学習機会の提供」とあるが、デジタルコンテンツの充実だけでなく受信方法の強化もお願いしたい。例えば、施設の通信環境の強化やWi-Fiの貸し出しなど、特に高齢者にとっては弱い部分になるので、制度を進めるにあたって工夫して欲しい。
- 3点目に、P31の個別施策②で市民活動団体と連携しますとあるが、健康など諸問題に対して、岡崎市内で20の包括支援センターで様々な学習機会を提供しているので、その団体との連携を強化するなど、より具体的に記載して欲しい。
- 4点目に、P32の「地域づくりを担う人づくり」で地域交流センターが位置付けられているが、「地域学習拠点の充実」でも記載をお願いしたい。
- 委員：まず、SDGsで多様性や障がいを持つ人など誰一人取り残さないという観点で重点施策として位置づけたらどうかというご指摘だが。
- 事務局：行政としてSDGsに取り組んでいくという観点から重点施策に位置づける方向で検討したい。
- 委員：国としても障がいのある方の生涯学習として室を立ち上げて推進しているので、是非ご検討いただきたい。
- 2点目がデジタルコンテンツの充実についてだが、発信だけでなく受信環境についてもケアをお願いしたいということだった。
- 委員：自主講座などでスマホの使い方講座のようなデジタルコンテンツ関係の内容が減ってきているので、対応をお願いしたい。
- 委員：コロナ禍でICTを活用した学びの機会の提供は、大事な観点となるのでぜひ検討いただきたい。
- 3点目が、専門機関との連携についてだが、例えばP40の計画の推進で各団体などの連携が記載されているので、(3)に専門機関など記載する方法が考えられるが検討をお願いしたい。
- 4点目の指摘だが、地域学習拠点の充実に地域交流センターも含め

て欲しいとのご指摘だが、いかがか。

事務局：市民センターを生涯学習の地域拠点として位置づけている一方で、地域交流センターを市民活動支援拠点として位置づけているため、分けた記載としている。

委員：P41の学びの循環で記載はされているが、少しわかりにくい部分はあるかもしれない。今後、専門機関との連携は重要となってくるのでもし補足できるのなら検討いただきたい。

委員：P24の市民のライフステージに応じた学習支援で、個別施策①②で乳幼児や青年期における学習支援があるが、コンサートだけでなく科学的な部分や社会のことについて関心を深めることも大事なので記載して欲しい。  
また、青少年への学習支援で、学習・交流機会の充実だけではなく施設も充実して欲しい。  
余談だが、「乙川リバークリーン」の取り組みのように、子どもが企画したものに対して大人がサポートする機会が増えれば岡崎市の生涯学習が充実するのではないか。

委員：子どもが参画することは、市民活動の分野では重要視されてきており、自治体によっては「住民自治基本条例」で子どもの参画を盛り込む動きも出てきているので、生涯学習活動と市民活動が循環していくことを目指すのは、岡崎市の生涯学習として一つの大きな特徴であるので充実して欲しい。  
学校との連携で、ふるさと学習や地域の課題解決学習に子どもたち自身が取り組むなど可能であれば是非お願いしたい。

委員：市民活動の現場において様々な気づきがあり、その素朴な疑問や興味、関心に対していかに大人がサポートしていくのが大事である。また、応援していくことが市民活動などを推進する原動力となるので、是非お願いしたい。岡崎市では子ども達の学びや調査の成果を集めてりぶらで展示し発信する取り組みをしているのでこれからも続けて欲しい。

委員：岡崎市として取り組んでいる事業はあると思う。それを洗い出せば、

新規事業を立ち上げる必要はないと思うので、今までの取り組みを  
発展していってもらえればよいのではないかと。

委員:P19の基本方針で学んだ成果を他の人に教えるとするが、「教える」  
ではなく「共有する」などの表現がいいのではないかと。また、基本  
方針1で家事や育児、仕事などで学習する「余裕がない」ではなく  
「時間を持ちにくい」など表現方法を検討して欲しい。  
また、先ほどP32であった話で、地域交流センターで様々なことが  
出来ることを、回覧板だけでなく、デジタルコンテンツなどで受信  
できる方法も周知して欲しい。  
最後に、外国人市民に対する学習機会の提供とあるが、外国人市民  
は日本語がわからないので「やさしいにほんご」など、まずは、外  
国人市民の方が学べる日本語教室を是非ここに入れてもらいたい。

委員:「教える」は教える側のハードルが高くなる印象になるため、「共有」  
や「分かち伝える」がいいと思う。また、学習する「余裕がない」  
ではなく、「時間を持ちにくい」など意味がわかりやすい表現を検  
討して欲しい。最後に日本語学習については、P25の個別施策②で  
「生活課題やニーズに対応した」に含まれていると考えているが、  
別に記載するかどうかは検討をお願いしたい。

事務局:外国人市民と日本人とが相互理解を深めるような講座はりぶら  
の国際交流センターで実施しているので、具体的に記載するかど  
うか検討したい。

委員:専門機関の連携など記載しておくこと、より国際化に対する専門知識  
を持った機関と連携しながら進めていくことが表現できるので検  
討をお願いしたい。今までの意見を集約すると年代とのクロス、図  
書館の人材の育成、施設の機能強化、親しみやすさ、「困難」の表  
現、SDGsの取り組み、デジタルコンテンツの受信強化、専門機関  
との連携、循環、ライフステージの充実、「教える」ではなく「共  
有」など、「余裕がない」ではなく「時間が持ちにくい」、外国人市  
民への学習機会の提供（やさしいにほんご）の意見が挙げられた。

委員:日本人が外国人と接するための「やさしいにほんご」を学ぶ機会の  
提供も検討して欲しい。

委員：いただいた意見についてすべて反映できるかわからないが、今日頂いた貴重なご意見を基にして、事務局には素案の策定をお願いしたい。

- (2) スケジュールについて  
事務局から資料3（スケジュール）について説明

<以下、各委員の意見等>  
特になし

### 3 連絡事項

次回の委員会は令和3年の3月頃を予定。日程が決まり次第ご連絡させていただきます。

－ 会 議 終 了 －